名古屋大学減災連携研究センターでは地震、水害、土砂災害など、あらゆる災害に関する研究を進め、その成果を皆様の家庭や地域での防災・減災活動に役立てていただけるよう、日々活動しています。

令和元年９月２６日は、かつて伊勢湾沿岸および周辺地域に大きな爪痕を残した伊勢湾台風上陸から６０年の節目に当たります。伊勢湾台風は上陸時の中心気圧が戦後２番目に低い台風で、日本列島のほぼ全域が暴風域に含まれる巨大な勢力を保ったまま襲来しました。この台風による高潮は伊勢湾奥部で最大となり、名古屋港周辺に貯えられていた木材の夥しい流出を伴って市街地に押し寄せました。さらに、周辺の山間地や低平地においても、土砂災害、洪水氾濫を同時期に多地域で引き起こすこととなり、我が国の水害史上、最多の死者・行方不明者を生じさせました。この戦後最大級の台風災害を受けて、我が国では昭和３６年に災害対策基本法が制定されました。

平成３０年７月豪雨を始め、近年、風水害が激甚化する中にあって、国は、命を守るための避難行動を重視する施策を実施し始めています。

伊勢湾台風以降、たまたま巨大台風の襲来に見舞われていないこの地域にとって、最も重要な教訓となる当時の状況を語り継ぎ正しく伝えるため、残された資料から得られる知見をみなさまとともに改めて理解することがとても重要と考えています。

名古屋大学減災連携研究センターでは、皆様から頂いたご支援で「伊勢湾台風 特別研究チーム」を編成、この巨大台風による被害の実態をみなさまと共有するための取り組みを実行します。

将来の「スーパー伊勢湾台風」による被害を最小限に食い止めるために、一人一人が高潮・洪水について自分事で考え、それぞれの地域で発生するかも知れない被害の特性について知ることは、ハザードマップの活用等の事前の備えや、気象警報、警戒情報などを活用した安全行動をとる、といった地域防災力の向上につながるものと期待しています。

減災連携研究センター長　福和伸夫

# ご寄附の申し込み方法

## 銀行・郵便局で振込用紙による方法

・振込用紙は、ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付きATMでご利用いただけます。

※ゆうちょ銀行以外ではご利用いただけませんのでご注意ください。

・減災連携研究センターまでEメール(fund@gensai.nagoya-u.ac.jp)又はFAX(052-789-5023)で送付先をご連絡ください。専用の振込用紙を送付させていただきます。

※払込用紙による入金の期日は、9月25日15時までになります。（それ以降は、払込の利用ができかねます。）

※払込取扱票の「ご依頼人・通信欄」は、必ず全ての項目をご記入ください。（不足がある場合、寄附者の特典を受け付けられない場合がございます。）

## Webによる方法

・下記URLからお申し込みください。

(https://readyfor.jp/projects/nagoya-gensai2019)

・詳細は Web をご覧ください。

レディーフォー　スーパー伊勢湾台風　検索

※振込手数料はご寄附者様のご負担になります。

名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY × Readyfor

いただいたご支援は、クラウドファンディングサービス Readyfor を通じて本学に寄附されます。

本プロジェクトの目標金額は200万円です。申込期限内に目標金額のご支援が集まった場合に成立となり、ご支援を活用させていただき、コースに応じた感謝のお気持ちをお返しさせていただきます。

不成立となった場合、Readyfor または名古屋大学は、ご支援者様に対し、ご支援金を返金させていただきます。なお、ご支援者様と連絡がとれない場合、ご支援者様の返金先口座が不明である場合、その他ご支援者様に対する返金ができない場合、Readyfor または名古屋大学は、その判断により、返金できなかったご支援金を、Readyfor 所定の団体に寄附させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。


**お問合せ**

〒464-8601

名古屋市千種区不老町

名古屋大学 減災連携研究センター

FAX:052-789-5023

E-mail : fund@gensai.nagoya-u.ac.jp


減災連携研究センター
Disaster Mitigation Research Center

クラウドファンディング 実施中

# 伊勢湾台風から60年

令和元年7月1日（月）～9月26日（木）

# 迫り来る！
# スーパー伊勢湾台風
# に備えるために

昭和３４年９月２６日、伊勢湾台風が紀伊半島に上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。とりわけ伊勢湾に面した愛知・三重の両県では合わせて４０００人以上、名古屋市だけでも１９００人を超える犠牲者を出しました。我が国全体では死者・行方不明者が５０９８人に達するという広域巨大災害となりました。

名古屋大学減災連携研究センターでは、伊勢湾台風６０周年にあたり、伊勢湾台風被災当時の資料やスーパー伊勢湾台風の被害想定を地図化し、減災館で公開します。

また、伊勢湾台風に関する場所をめぐる巡検行程を提案します。住民の皆様方には行程を参考に伊勢湾台風にまつわる場所を訪ねていただき、当時どのようなことが現地で起こったのかを知り、考え、今後の地域の防災力や自身の防災意識の向上に役立ていただきたいと考えています。

さらに、本年９月２５日から開催する減災館特別企画展「伊勢湾台風から６０年」において、特別研究チームの成果を展示内容に随時反映し、拡充することを目指します。

そして、伊勢湾台風特別シンポジウムを２回開催し、多くの市民の方々に伊勢湾台風に関する知識を共有し、地域防災力の向上に貢献できればと考えています。

この活動を通して、来る巨大災害に備え市民の防災意識向上に資する活動をするためクラウドファンディングによる研究資金の募集をいたします。

何卒、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

写真：高浜市提供

## 目標金額　2,000,000円

**皆様からの大切なご寄附は、右の事業に使用させていただきます。**

- ❖伊勢湾台風被災当時の資料やスーパー伊勢湾台風の被害想定を地図化し、減災館で公開します。
- ❖伊勢湾台風に関する場所をめぐる巡検を提案します。
- ❖減災館において９月 25 日から始まる特別企画展『伊勢湾台風 60 周年』の展示内容をさらに拡充します。
- ❖伊勢湾台風特別シンポジウムを２回開催します。
- ❖当時の記録と記憶を広く周知します。

## 寄附者への特典

**Aコース【5000円】**
- ✻ サンクスメール
- ✻ 減災連携研究センターHP「減災館News＆Topics」上の特別企画展のお知らせに、寄附者様のご芳名録（PDF）を掲載します。また、特別企画展中（10月1日以降）にご芳名録を貼り出します。（辞退可・ペンネーム可）
- ✻ 寄附金領収書

**Bコース【10,000円】**Aコースの内容に加えて、特別シンポジウム速記録

**Cコース【10,000円】**Aコースの内容に加えて、11月2日巡検（1名様）※特別シンポジウム速記録はありません。

**Dコース【10,000円】**Aコースの内容に加えて、11月23日巡検（1名様）※特別シンポジウム速記録はありません。

**Eコース【10,000円】**Aコースの内容に加えて、11月9日減災館ツアー（1名様）※特別シンポジウム速記録はありません。

**Fコース【10,000円】**Aコースの内容に加えて、11月30日減災館ツアー（1名様）※特別シンポジウム速記録はありません。

**Gコース【30,000円】**Bコースの内容に加えて、11月2日巡検（2名様まで）

**Hコース【30,000円】**Bコースの内容に加えて、11月23日巡検（2名様まで）

**Iコース【30,000円】**Bコースの内容に加えて、11月9日減災館ツアー（2名様まで）

**Jコース【30,000円】**Bコースの内容に加えて、11月30日減災館ツアー（2名様まで）

**Kコース【50,000円】**Bコースの内容に加えて、11月2日巡検（5名様まで）

**Lコース【50,000円】**Bコースの内容に加えて、11月23日巡検（5名様まで）

**Mコース【50,000円】**Bコースの内容に加えて、11月9日減災館ツアー（5名様まで）

**Nコース【50,000円】**Bコースの内容に加えて、11月30日減災館ツアー（5名様まで）

**Oコース【200,000円】**Bコースの内容に加えて、11月2日巡検（5名様まで）＆11月9日減災館ツアー（5名様まで）
さらに、減災館に設置した銘板にご芳名を刻ませていただきます。（辞退可・ペンネーム可）

**Pコース【200,000円】**Bコースの内容に加えて、11月23日巡検（5名様まで）＆11月30日減災館ツアー（5名様まで）
さらに、減災館に設置した銘板にご芳名を刻ませていただきます。（辞退可・ペンネーム可）

名古屋大学へのご寄附については、
税制上の優遇措置が受けられます。
詳しくは下記ＵＲＬをご覧ください。
https://readyfor.jp/projects/nagoya-gensai2019
寄附金領収書：2019年12月末までにお送りします。

| コース名 | 寄附金額（円） | シンポジウム速記録 | 招待人数/1口 | | | | 銘板 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 巡検（11月2日） | 巡検（11月23日） | 減災館ツアー（11月9日） | 減災館ツアー（11月30日） | |
| A | 5,000 | × | × | × | × | × | × |
| B | 10,000 | ○ | × | × | × | × | × |
| C | 10,000 | × | 1人 | × | × | × | × |
| D | 10,000 | × | × | 1人 | × | × | × |
| E | 10,000 | × | × | × | 1人 | × | × |
| F | 10,000 | × | × | × | × | 1人 | × |
| G | 30,000 | ○ | 2人 | × | × | × | × |
| H | 30,000 | ○ | × | 2人 | × | × | × |
| I | 30,000 | ○ | × | × | 2人 | × | × |
| J | 30,000 | ○ | × | × | × | 2人 | × |
| K | 50,000 | ○ | 5人 | × | × | × | × |
| L | 50,000 | ○ | × | 5人 | × | × | × |
| M | 50,000 | ○ | × | × | 5人 | × | × |
| N | 50,000 | ○ | × | × | × | 5人 | × |
| O | 200,000 | ○ | 5人 | × | 5人 | × | ○ |
| P | 200,000 | ○ | × | 5人 | × | 5人 | ○ |

## ✻巡検について✻

【11月2日：伊勢湾高潮コース】
巨大台風の襲来に伴う高潮によって被災した沿岸の低平地を巡って当時の被害の実態を探るとともにその後のインフラ整備によって生じた変化を確認しながら、人々の暮らしがどのように変化してきたか、考えたいと思います。

【11月23日：河川氾濫コース】
台風がもたらした豪雨によって発生した洪水は、内陸部でも長期、広域にわたる浸水被害をもたらしました。濃尾平野が長年にわたって抱えてきた排水の問題を、河道や集落の変遷などとともに振り返り水害とともに生きてきた地域の暮らしを考えたいと思います。